



第30回 子ども郷土研究 最優秀作品

土浦藩と「並木」の町 在宅の地名から歴史をたどる

都和南小学校5年

飯島 ^{りゅう}龍さん
中谷 ^{れな}玲菜さん

「子ども郷土研究」は、小・中学生が調査・研究を通して郷土の歴史や文化について関心を持ち、

我が郷土「つちうら」を見つめ、理解を深めることを目的に実施しています。

今回は92点の応募作品から、飯島 龍さん、中谷玲菜さん(都和南小学校5年)の作品『土浦藩と「並木」の町「在宅」の地名から歴史をたどる』が最優秀賞に選ばれました。

その作品(地図および一部写真省略。原文のまま)を紹介します。



飯島さん(左)と中谷さん(右)

1 研究の動機

ぼくの家は、並木町のJRバスのバス停、「在宅」のすぐ近くにあります。お父さんの実家もすぐ近くです。一緒に研究をした中谷玲菜さんはいとこです。やはり並木町に住んでいて、同じ都和南小学校に通っています。去年、ひいおじいさんの法事で親せきが集まった時、古い写真をみんなで見ていろいろな話を聞きました。その時、おじいさんの家や並木の人が昔はみんな武士で、「土屋の殿様から土地をいただいた」ことや、なぜ「在宅」とよばれているのかなど話をしてもらいました。そこで、この並木の町にも、土浦藩にまつわるいろいろな歴史があることを知ってびっくりしたので、もっと詳しく調べてみようと思いました。

2 研究の方法

- (1) 祖父母、両親、親せき、町の人から昔のことを聞く。
- (2) 本やパンフレットで調べる。
- (3) 図書館や博物館に行つて調べる。係の人や学芸員のの人に話を聞く。
- (4) 実際に見て回り、写真を撮ったり、説明板を写しとる。
- (5) 祖父母の家に残る古い資料を参考にする。

3 研究の内容

(1)「並木」の町の成り立ち

① 特ちようある町内の道路
ぼくたちの住む並木の町は、地図で見ると、とてもはつきりとした特ちようがわかります。並木

一丁四丁目の全体は東西(横)の道路が長い見通しのよい直線になっています。南北(たて)の道路は少しずつずれていて、きちんとした四つ角にはなっていない。また、ゆるいカーブのような道がありません。

自動車や自転車を通る時は、ゆっくり気をつけて走らなければあぶない道です。これは、土浦の町中の旧水戸街道に見られるように、敵にせめにくくさせるために工夫された「カギ曲がり」、「喰違」と考えられます。

(2)江戸詰め藩士が引きあげてきた「新郭」

並木の町は、江戸時代末の文久3年(1863)に土浦藩の林だつたところを切り開いてつくられた町です。江戸時代は「参勤交代」といつて、大名(江戸時代に徳川家につかえた1万石以上の家来)は、1年を將軍のいる江戸でくらし、次の1年を、領地である国もとで交ごにくりしていました。大名の妻や子は、人質として江戸の屋しきに住まわせたそうです。土浦藩でも土浦城でつかえる武士と、江戸の屋しきにつかえる「江戸詰め」の武士がいました。参勤交代は、たくさんの家来をつれて行くためにお金がかかり、とてもたいへんだつたということです。しかし文久2年(1862)に幕府は大名が反感を持たないように、きびしかった参勤交代のせいでゆるめしました。3年に一度江戸に行き、妻や子も国もとへ帰つてよいことになりました。そのころ、日本には外国の船があらわれて貿易を求めてくる、たいへんな時代になっていました。そこで、土浦藩でも大部分の江戸詰め藩士が引きあげ、藩の林だつた場所に「新郭」(郭)1区画をなす地いきをつくつたのが並木の町の始まりです。

並木のおもなできごと

万延(1860年頃)つくば街道が整備される(今

のJRバスの通り)

文久3年(1863)新郭ができる 藩校 采藻^{さいそう}
館・亀城稻荷神社できる

明治4年(1871)采藻館廃館

明治6年(1873)常名小学校創立(都和小の前
身)

明治22年(1889)都和村となる

昭和23年(1948)土浦市と合併

昭和27年(1953)並木町となる。JRバス山ノ
莊線開通

昭和41年(1966)並木児童公民館完成

昭和58年(1983)都和南小学校創立

平成10年(1998)亀城稻荷神社建てかえ

平成16年(2004)並木児童公民館建てかえ

(3) ぼく達の家の先祖

ぼくの並木のおじいさんの家の土地は、「土屋
の殿様からいただいた」と伝えられてきました。
でも、すぐ近くに引っこしたので、今はその場所
に親せきが住んでいます。先祖の藩士の名も、い
つのまにかわからなくなってしまったそうです。
浄真寺のお墓の文字もボロボロでした。でも文久
3年(1863)に、新郭ができた時に地図があ
り、全部の家の名前が書かれていました。それで、
わくわくしてみんなで元の家の場所をさがした
ところ、残念なことにわかりませんでした。たぶ
ん、身分は高くないのだと思われます。博物館の
人が「土浦分限帳」という古い記録から、藩士の名
前や身分などが調べられるというのを教えて
くれました。でも、名字しかわからないし、また、
ぼくたちにはとてもむずかしいので、いつか調べ
ることができたらいいなと思いました。

(4) 今の地図と比べてみて

文久3年(1863)の地図と、今の地図を比べ
てみると、道路はあまり変わっていないよう

です。土地は、石高(米でもらっていた武士の給料)
が高い順に広く、2000坪をこえる人から、2
00坪くらいまでの広さでした。160の家全部
に名前が書かれていて、友だちの家は、昔はだれ
の家だったとか、比べてみるとおもしろくなりま
した。たとえば、「都和ゆう便局」は「杉村弘之允^{ひろのじょう}」
さんの家のあと、向かいの「鈴木クリーニング店」
は同じ「鈴木」という人の家だったので、先祖なの
かもしれません。同級生の安藤さんのおじいさん
家は、土浦藩の有名な家臣(家来)だったそうです。
土浦市立博物館から、「安藤家文書」というたくさ
んの古文書(歴史の資料となる古い文書)を調べた
本が出ていて、玲菜さんとびっくりしました。今
のおじいさんの家は元安藤さんの土地のところの
つくば街道沿いです。そしてぼくの家は、「在宅」
バス停には近いけれど、つくば街道の南側で、「新
郭」のはんいには入っていないだったので、残念で
した。

いとこの玲菜さんは、並木四丁目に住んでいま
す。地図で見ると、このあたりも全部名前が書い
てあります。玲菜さんの家は、「本間鉄蔵」さんの
家のあった場所でした。でも、ふしぎなのは、こ
のあたりは今でも畑や空き地が多く、昔から人が
住んでいた感じがしません。おばあさんも「戦争
前から家はなかったよ」と言っていました。お母
さんは、「もしかすると、江戸から来た人たちは、
あんまりいなかなので、広い土地をもらっても住
めなくて手放したのかな」と推理していました。

(5) 明治・大正・昭和の地図

そこで、並木にはどのぐらいの家があったのか、
他の時代の地図も調べてみることにしました。家
のあるところは、記号でわかるからです。つくば
の国土地理院へ行き、航空写真や古い地図を見せ
てもらいました。

その結果、文久3年(1863)に、江戸から引
きあげてきたという地図がありました。どうや
ら全員が住んだのではなさそうだとすることが考
えられました。

(6) 土浦藩に関連した町の名

昭和27年、旧国鉄バス(今のJRバス)山ノ莊線
が、並木の町のつくば街道を走り出しました。「J
R在宅」のバス停は、その頃できたことになりま
す。並木の町の名は、昔、つくば街道に松並木が
あったことからよばれるようになりましたが、今
はもう見られません。「新郭」については、「江戸詰
め武士が引きあげてきた新郭」のところでのべま
した。「新(御)屋敷」は、新しい武士の屋敷町のこ
とだと思われます。

(7) 「在宅」の名のいわれ

「在宅」を辞書で調べてみると、「自分の家にい
ること」という意味でした。ぼくたちでも聞いた
ことがあることばに、「在宅かい護」(家でお年寄
や病人のかん護をすること)があります。「土浦町内
ものがたり」によると、武士たちの生活は苦しく、
商人たちが品物の代金を受け取りに訪れたりする
と、家族が「主人は在宅でござらぬ(主人は、今、
家にいません)」などと言って居留守を使ったりとい
うことです。「武士は食わねど高楊枝」(武士はみ
えを重んじて、たとえおなかがいまいでもそれを
態度に表さない)ということわざがあつて、武士
として支払うお金がないなどとは言えないので、
「在宅でござらぬ(留守です)」ということにしてい
たそうです。そこからよばれるようになったそう
で、むずかしいけれど、おもしろいいわれだと思
いました。ぼくのお母さんは、よその町の人から
住んでいる場所を聞かれて、「並木です」と答える
と、お年寄りの人は、「在宅のお並木」と言いかえ
る人が多いと言っていました。地図にはないけれ



ど、それだけ昔から親しまれたよび方なのだ、ということが分かりました。

(8) 土浦藩 洋式訓練の射撃訓練場

土浦市営並木共同墓地(並木二丁目)

私の家の先祖の墓は、浄真寺(立田町)と並木共同墓地にあります。この墓地のことを、おばあさんや私の母さんは、「ちようれんば」とよんでいます。「ちようれん」を国語辞典で調べると、①兵士を訓練すること。②訓練を積むこと。という意味でした。お母さんは子供のころ「ちようれんば」というのは、「お墓のことだ」とずっと思っていたそうですが、ここは江戸時代の末ごろ、土浦藩の「洋式訓練の射撃訓練場」だったのでそうよばれるようになったそうです。

(洋式訓練を行なったわけ)

江戸時代なので、刀や弓、槍で戦うようないくさをテレビや絵などでよく見かけます。けれども江戸時代の末ごろになると、各藩でさかんに西洋の砲術(大砲をあつかう技術)などを取り入れた訓練が行なわれるようになってきました。というのも鎖国(外国との交通、交易を禁ずること)をしていた日本のまわりの海に、たびたび外国の船がすがたを見せるようになり、幕府は、日本への襲来(おそつてくること)にそなえて、いろいろなたいさくを立てたのです。茨城では、ひたひたな市に安政2年(1855)、水戸藩の「反射炉」ができ、ここで大砲をつくったそうです。土浦藩の大砲の弾はどこでつくられたのか知りたいです。このあたりは、なだらかな山や谷といった地形です。墓地入口のわきの土のへいは、訓練場の「土塁」のあとです。だいたい私達の背たけ(140〜150cm)ぐらいの高さです。私のお母さんの子どものころは、飼っていたねこや犬が死ぬと、この土塁の下にうめに来る人がいたということです。ここ

には約380のお墓があり、歩いてみると、家の歴史を書いた墓や土浦藩士のお墓も見つかりました。

(9) 鉄砲塚(都和一丁目)

鉄砲塚は、土浦藩が、鉄砲のしやげきの練習場として、江戸時代の中ごろに作った塚です。ここに、本物の弾をうちこんで練習しました。ちよつと見た感じは、小さな山のようにです。今は草や木がたくさん生えています。大きさは、高さ6m、はば26m、おくゆき10mだそうです。龍さんのお父さんは、子供のころ、この塚に登って、戦争ごっこをして遊んでいたそうです。(昭和46年、市指定史せき)

(10) 藩校 采藻館(並木三丁目)

江戸時代からうつり住んだ藩士の子ども達は、新郭(並木町)に設けられた郁文館(藩士の子ども達を教育する学校の分校、「采藻館」で学びました。場所は、今の都和支所の所です。広さは分かりませんが、郁文館と同じく、「文館」(読み書き中心の学問)と「武館」(剣術、槍術、柔術をするところ)とに分かれていました。今の私達の勉強よりも、ずっとたいへんそうです。文久3年(1863)にでき、明治4年(1871)になくなりました。しかし、この建て物は、そのまま明治6年(1873)創立の常名小学校(都和小学校の前身)に引きつがれました。このときの生徒は、男83人、女45人、男の先生1人で授業料をとったそうです。

建て物の屋根の一番高い所に飾られた、土浦藩士土屋家の「三つ石紋」の鬼がわらは、大正7年(1918)に現在の都和小学校の場所にうつるまで見ることができたそうです。「采藻館」が都和小学校となっていたのにはとてもおどろきました。ひいおじいさん、おばあさん、お母さんや龍さん

のお父さんは都和小学校の卒業生です。昭和48年(1973)の「創立100周年記念はがき」が出てきました。古い校舎や「三つ石紋」の鬼がわらの写真のせた、特別なはがきがありました。

(11) 亀城稲荷神社(並木三丁目)

ここは、新郭が完成した文久3年(1863)、土浦城内の亀城稲荷を分社し、守り神としたのが始まりです。明治6年(1873)には、常名村の神社になりました。境内にある「八幡宮」の石碑は、昭和19年に建てられ、ぼくたちの高祖父おばあさんの祖父の名が氏子総代(同じ氏神を祭る土地に生まれた人の代表)としてきざまれています。平成10年には、町内の人の寄付で、新しい社殿に建てかえられました。ぼくたちのおじいさんは、知り合いのひとと「さいせん箱」を寄付しました。今は、新年の「元旦祭」、3月の「二の午祭」(うまさい)のほか、8月の「並木八幡祭」が行なわれ、玲菜さんはおはやりで参加しています。神主さんは常名神社と同じ人だそうです。また同じしき地に、「並木児童公民館」があり、平成16年にやはり新しく建てかえられ、子供会育成会の行事などでよく使われています。

(12) 土屋神社(亀城稲荷)のうつりかわり

土屋神社の起こりは、宝暦6年(1756)、土浦四代城主、土屋篤直公が、城内二の丸にご先祖様を祭ったのが始まりです。ぼくたちの高祖父は、「亀城会」(昭和5年〜戦争中になくなる)、ひいおじいさんは、「藩友会」(昭和30年〜不明)という藩士の子孫の会の会員でした。ひいおじいさんあての手紙とパンフレットによると、神社は土浦城内にあった場所から、あちこちにうつされ、やっと城内(亀城公園)にもどってくるようになったので、再建の寄付をよびかけているという内容でした。



昭和38年、亀城公園内に再建された「土屋神社」

そこで、ひいおじいさんの古いパンフレットを参考に、土浦市内の土屋神社のあとをたずねてみました。

「土屋神社」亀城稲荷のうつりかわり

宝暦6年(1765) 土浦城二の丸に建立
天保11年(1840) 水天宮川口町に建立
文久3年(1863) 新郭(並木)に分社
明治25年(1892) 川口町に移転
昭和10年(1935) 小松天神山へ移転
昭和38年(1963) 亀城公園内へもどる

4 感想

夏休みの間じゅう、祖父母、親せきの人、町の人、博物館の人など、多くの人に協力してもらって、郷土研究を進めることができました。いろいろな調べはとても大へんでしたが、並木の成り立ちがよく分かりました。

飯島 龍

並木の街並みや学校の歴史を調べてみて、ふだん通っている道にもいろいろなわけがあるのが分かりました。今度は先祖についてもっとくわしく調べてみたいと思いました。

中谷 玲菜

〈参考文献〉

- ・土浦市史
- ・土浦町内ものがたり
- ・土浦の歴史散歩
- ・土浦藩の先生たち
- ・市立博物館パンフレット
- ・昔の写真土浦
- ・土浦・石岡・つくばの歴史
- ・少年少女の日本の歴史
- ・江戸時代館
- ・土浦市広報紙

※優秀賞、優良賞、努力賞などの作品は、別表のとおりです。

賞	研究テーマ	氏 名	学 年
優秀賞	土浦の信仰の道	関 萌 野	下高津小5年
〃	桜川事故はなぜ起きたのか	高 橋 健 大	真 鍋 小 6 年
〃	土器と武者塚古墳の関係	沼 尻 直 樹 橋 口 毅 郎	都 和 小 5 年
〃	神立源兵衛新田のふしぎ発見！	佐 藤 永 理 花 佐 藤 万 由 花	神 立 小 5 年
〃	江戸時代における土浦港の水運交通について	池 田 愛	土浦二中2年
優良賞	土浦を満喫 ～サイクリング観光ガイド～	外 山 将 武	下高津小6年
〃	矢作の祭礼	田 納 友 晃 大 塚 涼 香 大 塚 綾 香	穴 塚 小 5 年
〃	おおつ野のいせきについて	坂 本 里 菜	上大津東小4年
〃	私が旅した水戸街道 ～史跡を訪ねて～	二 宮 綾 香	右 舂 小 6 年
〃	土浦の洪水記録	渡 辺 英 里	土浦二中2年
努力賞	ヨシのへったかすみがうら	和 田 佳 子	大岩田小3年
〃	私のご先祖様は？	檜 山 万 由 子	都和南小6年
〃	土浦一中・近隣学校の歴史	福 田 美 由 姫	土浦一中2年
〃	私たちの霞ヶ浦	藤 澤 有 紀	都 和 中 1 年
〃	土浦の高齢者福祉は今！	瀬 川 礼 江	都 和 中 2 年
学校賞	土浦第二中学校		